

ニンジン (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に不完全ではあるが転換する型である。窒素の吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤中残存養分は比較的安く制御できる。リン酸に対しては低～中領域に適應できる。ただし、窒素、カリについては、根部の肥大期の要求量が多い。そのため、この時期に肥切れしないような管理が必要である。

〔病害虫・雑草防除〕

地上部病害の発生は肥培管理の良否による影響を受けやすい。土壤病害や線虫の対策として圃場の排水を良好にし、滞水させない。病害虫の早期発見、適期防除を行い、化学農薬使用の低減を図る。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p> <p>緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥は前作施用 2～3t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。</p> <p>肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で施肥基準以下</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%</p>
化学農薬 低減技術	<p>機械除草を行う。</p> <p>BT剤を利用する。</p> <p>(対象：ヨトウムシ類)</p> <p>対抗植物(エンバク、クロタラリア等)を利用する。</p> <p>(対象：ネコブセンチュウなど)</p> <p>光反射マルチを利用する。</p> <p>(対象：アブラムシ類、雑草など)</p> <p>防虫ネットで被覆する。</p> <p>(対象：アブラムシ類、ヨトウムシ類など)</p> <p>マルチ栽培や敷きわらを行う。</p> <p>(対象：うどんこ病、黒葉枯病、雑草など)</p>	<p>慣行使用回数の 20%減</p>
その他の 留意事項	<p>未熟な有機物の施用は、岐根発生の原因となるので、前作に有機物資材を十分施用しておくか、播種の最低1ヵ月前までに完熟堆肥を施用する。</p> <p>有機質肥料は、播種の遅くとも20～30日前までに施肥し、分解を促進させておく。</p> <p>低温期、あるいは梅雨期を通過する作型では、一層の分施を行うなり、肥効調節型肥料を使用するなどして、肥料の利用率を高める必要がある。</p> <p>水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。</p> <p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壤の改良を行う。</p>	